

20030575

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究

平成15年度 総括研究報告書

主任研究者 山本 直樹

平成16(2004)年3月

目 次

I. 総括研究報告書	
エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究 山本直樹（国立感染症研究所エイズ研究センター長）	・・・ 1
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	・・・ 13
III. 研究成果の刊行物・別刷	・・・ 15

1. 総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
総括研究報告書

エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究

主任研究者 山本 直樹 国立感染症研究所エイズ研究センター長

研究要旨

エイズ対策研究事業のための研究計画発表会と研究成果発表会を開催し、平成16年度公募研究課題案と組織の設定、研究者の選考及び研究費の配分額の決定内容、及び研究成果の評価などの項目について検討し、提言を行った。研究計画発表会と研究成果発表会では、主任研究者からの研究計画と実施状況について報告を受けるとともに、各研究者間の意見交換を促進し、各研究課題の相補性を高め、エイズ対策研究事業の総合的発展をめざした。さらにこれまでの研究成果を分析し、今後の推進の方向性を検討した。これらは、事前、中間・事後評価委員会の2委員会からなる専門委員会との密接な連携の下に行われ、すべての課題について、独創性、新規性、達成度、行政的意義という観点を中心に、入念なチェックアンドレビューの施行による厳正、中立な評価システムを導入することに成功した。とくに本年は24課題が新発足したことから、その計画の設定の重要性を理解し、評価と今後のあり方を考える上で重要な年となった。以上に加え、日常的な情報交換、学会活動、各種のメディア、多くの専門誌などを通して、国内外のエイズ対策研究の動向把握に努めた。個別の班の班会議への出席と意見交換も積極的に行い、将来大きく発展する可能性のある研究や問題点の洗い出しなどを通じて、今後のエイズ対策研究事業のさらなる発展に努めた。

以上の結果は限られたリソースとしての研究費がエイズ対策研究事業に適正に使用、配分されるために有効に活用されていることを示すものと考えられた。

A. 研究目的

米欧先進国でのエイズの流行には一定の歯止めがかかり、ある程度の抑止効果が見られるようになった反面、発展途上にある世界の多くの国々ではいまだにその感染は拡大の一途をたどっている。アジアにおけるエイズの流行に関し、最近いくつかの将来予測が発表されているが、そのいずれも今後のアジアにおける流行の深刻さを示すものとなっている。中でも中国での感染拡大は凄まじい。問題は、日本に、そうした近隣地域から HIV 流行の波が訪れることに対する社会的認識がきわめて乏しいことである。厚生労働省のエイズ発生動向調査によれば、HIV/AIDS 報告者数は増加傾向が続き、感染経路は大半が性感染である。1999 年以降、男性同性愛者間の感染による感染者数が異性間感染を大きく引き離すように急増し始めた。また、HIV 感染者の若年化傾向も顕著になってきた。

このように医学的にも社会的にも問題となっているエイズを克服するために医学研究者は一致協力して対応する必要がある。この為には、基礎医学、臨床医学、更には、疫学、社会医学的研究と巾の広い分野において、独創的で新規性のある研究の展開が望まれている。しかしながら、研究資源にはさまざまな点で制限があり、いかにこの限りある資源を有効活用し、成果を挙げるかがきわめて重要となる。

エイズ対策研究事業の実施にあって必要なことは、ふさわしい研究課題の企画・立案、そのための研究費の適正な配分、研究成果の厳正かつ公平な評価である。企画・立案に当たってはエイズ研究をグローバルな立場より、広く自然科学的基礎研究、臨床研究、疫学的社会医学的立場までふまえて検討する必要がある。そのために、本研究では評価委員会のための研究計画発表会とともに、研究成果発表会を組織するこ

とにより、各主任研究者からの研究成果報告を聴取し、必要な助言と支援を行う。評価に当たっては、その対象として独創性、新規性、達成度、行政的意義という視点とともに、必要な要素の把握とその限界、評価の視点の相対性、手法の限界、評価結果についての解釈の問題、透明性の確保や積極的な公表の問題、アカウンタビリティの確保などに留意することが重要である。これらの活動を通じて、わが国で必要とされるエイズ対策研究事業の企画・立案から事前、中間・事後評価委員会までに至る一貫した評価システムを確立することが可能となり、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業の適正かつ円滑な実施を図ることが出来る。

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業で必要とされるのは、適切な医療と予防につながる一本筋の通った独自の研究である。感染における HIV の吸着から出芽に至る個々の過程を宿主-ウイルス関係の点から詳細に解明する研究は、治療・予防をもっとも大きく前進させる原動力となると考えられる。とくに増殖寄生体として、HIV の感染・増殖、そして病原性発現にかかわるウイルス性因子と宿主側因子の相互作用、とくにそのような因子となる細胞側タンパクの同定が重要である。現在の世界の研究の焦点もそこにある。新しい分子がもし同定されれば、それはそのまま HIV 感染症/エイズの治療の新しい標的となることが期待されるため、この点についても、さらなる調査分析としかるべき研究者のリクルートをする必要があり、これらの分野の発展性を調査することも目的とした。

B. 研究方法

1. 研究目的を達成するために以下の会を開催した。

1) エイズ対策研究事業 研究計画発表会

平成15年8月19-20日

於：国立感染症研究所

(別添プログラム参照)

すべての研究班の研究計画を各班長に発表してもらい、エイズ対策研究評価委員である協力研究者の先生方に提言をお願いした。

2) エイズ対策研究事業 研究成果発表会

平成16年2月25-26日

於：国立感染症研究所

(別添プログラム参照)

研究成果発表会に当たっては、各主任研究者から直接報告を受け、各課題についてとくに「独創性・新規性」、「達成度」、「行政的意義」の3点について留意した。さらに全課題を総括的に論ずるための総合討論を行った。

2. プロジェクト改善のための調査分析

本事業に参加している研究者との日常的情報交換、個別の班の班会議への出席、学会活動、各種のメディア、国際的研究動向を専門誌を通して調査した。

(倫理面への配慮)

主任研究者の役割は評価とアドバイスを中心としたものであることから、特に倫理的に問題となるような内容は含まれていないと考えられる。

C. 研究結果

1. 昨年は平成12年度発足の17にものぼる多数の課題が最終年度(3年目)を迎えたことで大きな節目の年となったが、本年はその入れ替えにより、大多数の研究班が新しいミッションの下に、出発した重要な年であった。研究班として採択された平成15年度発足の新規課題は24課題で、2課題をのぞき17年までの3年間の継続の予定である(別添採択課題一覧参照)。秋山班、樽井班、市川班の3班が平成14年度発足の課題(平成16年までの予定)、杉浦班、佐藤班の2班が平成13年度発足で今年度が最終年度となった。内訳は、社会医学研究8課題、臨床医学研究11課題、基礎医学研究6課題、それに疫学研究4課題となり、適当なバランスが保たれているように思われ、以下の研究成果発表会の項で述べるとおり、多くの課題で今後に期待を抱かせるものが多かった。

2. 研究計画発表会(平成15年8月19-20日)では、これまでの研究で得られた結果をもとに、各班の班長には平成15年度からの自分の班

研究にどのようなミッションを課し、班を運営していくかという点を中心に、その計画を発表してもらい、エイズ対策研究評価委員である協力研究者の先生方にご意見と提言をお願いした。下記に班構成や全体にかかわる部分のまとめをそのまま示す。

- ・ 純然たる研究と行政への提言が必要な研究とがあり、後者は評価しにくい点もある。(疫学、医療体制、検査体制 etc.)
- ・ 外国で提唱、発案された概念(例、免疫再構築症候群、HAART、中断療法)は基本的には追試の類で、こうしたものを研究課題の柱におくのは独創的とはいえない。サブテーマとしてやってみることは必要。柱は自分たちが発見したこと、発案したことにより立てるべき。この点をはっきりしないと日本のエイズ研究の独自性が出てこない。この点が日本のエイズ研究の構造的、歴史的欠陥のような気がする。
- ・ 上記の観点から何が新しく何が物まねであるかを基礎・臨床を問わずすべての課題についてクリアーにする作業が必要。
- ・ 重複課題の整理、一本化。研究者の重複(複数の班へ)があれば必然性をはっきりさせる。
- ・ リサーチレジデント採用のための費用を本体研究の中に一本化し、レジデント採用と研究実施の期間的“ずれ”を解消する。
- ・ 個々人の独創的発想からボトムアップ的に made in Japan の研究を育てるための若手枠の設置が必要。
- ・ 皆さん熱心に研究しておられるように思う。基礎医学的な分野、臨床医学的な分野、社会学的な分野が共存している発表会の評価委員をする者として、大変興味深いとともに、その場その場で転換をすることが大変むずかしく感じる。3分野について各々総括の口演があってもよいかと思うが、如何。
- ・ 社会学的研究内では、研究内容の重複はほとんどなく(少なく)、それぞれに意味がある研究であると評価できる。
- ・ 予防対策への貴重な提言も多々見られ、予防施策(介入プログラム)が、広範に行われ、その結果もまた、研究者/班にフィードバックされれば、さらにこれらの研究の意義が増

すものとする。

3. 研究成果発表会(平成16年2月25日-26日)では、研究班の大小に応じて30分、20分の発表・討論時間を保障し、研究の出発点、到達段階と問題点を徹底的に明らかにすることができた。このような取り組みは中間・事後評価委員会を厳正に、深く行うための必須の前提であることが、評価委員のコンセンサスとなった。

継続中の課題にあっては、相対的に昨年よりさらに進歩した発表が多く見られた。また新発足の課題にあっても昨年まで存在した同様のミッションを持った個々の課題に比較して、これまで指摘のあった問題点の克服や疑問点の解明に努力した跡が見られ、さらに改善されたと考えられた。

以下、分野別によりスペシフィックな点につき述べてみたい。

臨床医学研究分野では、2の項で述べた、オリジナリティーの問題がある研究も一部には見られるものの、着実な成果が得られた。昨年、話題になった出雲班の HIV 脳症へより特化した研究は改善が著しい。日和見感染の研究では研究の役割分担につき他班との間でさらに整理が必要かもしれない。同様のことは稲葉班と田中班のところでも話題になった。疾病データベースの構築については今後、このことでいかに患者側にメリットがあるかを理解してもらうかが重要であろう。今後の研究を可能にする新薬開発と病態の評価系開発、ARV 血中濃度測定法開発とその有効性の証明、HIV 感染者の QOL 向上、血友病の遺伝子治療で着実な成果が得られた。

基礎医学研究分野では、研究的には良さそうでもその実現性に疑問の呈された研究が複数あった。ウイルス複製の分子素過程の研究が立体構造研究の導入などにより、昨年指摘のあった点の克服など、着実な歩みを見せている。ワクチンの研究ではいくつかの候補ワクチンでその有効性、安全性に対する検討が進んだこと、免疫防御機能、中和抗体産生のメカニズムに関し成果が得られ、さらに一步フェーズ1トライア

ルへ近づいた。さらに発症予防ワクチンについてもその可能性を示唆する興味深い結果の報告もあった。

社会医学・疫学分野では、いつも言われていることであるが、疫学的研究から NGO の活用まで幅広い取り組みがあり、これをいかに具体的な施策に反映させるかが重要である。わが国のみならずアジア、世界の実情を見据えた上で、研究の中からそのような提言が発せられることが期待された。個別施策層に対する予防介入研究としては範囲が広すぎて絞りきれていない、評価で指摘があったことが改善されていないという意見もあり、今後の努力と発展が望まれる。また研究の中にはそのアプローチに具体性がない、そのままでは提言につなげられないのではないかとの指摘を受けるものもあり、改善を期待したい。とくに池上班が、その計画性、科学性、目的と手段の点から評価が高かった。

4. 「エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究班」としては、研究計画発表会と研究成果発表会の開催を中心とした活動により、研究成果発表会の直後(平成16年2月27日)に開催された評価委員会の公正な評価につなげることが出来た(本主任研究者はオブザーバー参加)。昨年、多くの課題の終了とともに、次の戦略の構築が問題となったが、基本的には課題のほとんどは発展的に継続すべき価値があるとの評価を受けたという理解のもと、今年度、ほぼ“総替え”に近い規模で班の再編成が行われた。その他、以前から指摘のあった研究者の重複については、大幅な改善があった。さらにこれも以前指摘のあった若手研究者の登用と中堅研究者の主任研究者への登用についてはかなりの改善を見ているので、これを一層促進するよう図っていく必要がある。

5. HIV の感染・増殖、そして病原性発現にかかわるウイルス構成成分と宿主側因子の相互作用、とくにそのような因子となる細胞側タンパクの同定に主眼を置いた“新しい芽を探索する研究”については、佐藤班、岩本班などの研究の中に今後が期待されるものが見られた。またワクチンの研究ではとくに予防ワクチンの開発

の分野で佐多班で実用化に向け、一定の成果が得られた。

6. 2003年に神戸で開催予定であった ICAAP は、SARS 流行のあおりをこうむって、急遽中止になった。しかし、本年のバンコックで開催される予定の世界エイズ会議に引き続き、来年、予定通り神戸でこれが開催されることが決定している。諸外国との国際連携を推進し、国内外の HIV/エイズ対策にとって貴重な機会となるう。

D. 考察

評価の視点については、その研究成果が1) 直接の研究成果(アウトプット)と2) 納税者である国民にひ益する研究成果(アウトカム)、の2点を区別して、より明確にする必要がある。そのためには、エイズ対策研究事業の成り立ちという原点に立ち戻り、そのミッションと研究実施形態の多様性についての考慮を充分に行うことが重要である。とくに、国民にひ益する研究成果(アウトカム)という視点からの評価では、厚生労働科学研究費補助金は国民の要望にただちに答えられるサービスを効率的に提供することを目的としており、その評価にあたってはサービスの利用者、受益者である国民の立場に立った成果を対象とする評価が行われるべきであろう。しかしながら、これまでの研究評価の多くは研究成果の直接の産物である論文、特許などの数を基にしたアウトプット評価がやりやすさも手伝い、中心になっていたように考えられる。たしかに国際的な論文や特許と言う点では本事業は、ある程度の結果を残していると言える。しかしエイズの現実に立ち返るとわが国は先進国中で唯一、いまだに感染率の数が右肩上がりを示している国であることも否めない事実である。中でも男性同性愛者はとくに感染者の増加が著しいリスクグループとなっている。感染者の若年化も問題である。このことはアウトカム、つまり国民のニーズという点から考えると、本事業がまだ充分応えていないと言われても仕方がないということを示している。そのため、今後の施策等に関し、班研究で得られた成果をもとに国に対してはより積極的に提言を

行っていく必要があると思われる。一方、国民に対しても研究成果は積極的に公表し、優れた研究開発を社会に周知することにより、社会啓蒙に努めると共に、納税者に対する説明責任を果たし、広く国民の理解と支持を得る。当然評価は厳正中立に行い、重点的、効率的な予算、人材などのリソース配分に反映する。

一方、そうは言いつつも研究者の創造性の芽を摘むようなことは決して行うべきでない。創造性が十分に担保され、自由で柔軟かつ競争的で開かれた研究の環境の創出の実現に努力することは重要である。

評価結果はその意義、目的からまず実施者である研究者の自己改革に反映されるべきであろう。それにより研究者の自己改善に資することが本研究班の使命と考える。また評価結果も同様に広く一般に公開され、評価に当たる委員の適格性も含め、これも国民の理解および支持を得る必要があると考えられる。

E. 結論

エイズ対策研究事業は幅広い分野を包含しているため、その評価は単純ではない。とくに社会系、一部の臨床系の研究プロジェクトでは研究開発の貢献を定量的に示すことは困難である。より適切な評価の為に、政策提言の定性的、定量的評価などを含め、より多様なアウトカム指標の設定が必要である。一方、基礎や臨床研究分野では、いわゆるアウトカムの大きさや質は、論文の数、インパクトファクターなどで客観的に示すことが可能であり、比較的評価がしやすいと言える。ただしこれが真の意味で本研究の目的に必ずしも比例しないことはまた容易に想像されることである。従って、定量的アウトプット評価が逆に研究開発の進展を阻害する危険すらある。この点に十分かつ慎重に考慮を払いつつ、今後、貢献の度合いを短期的視点だけでなく長期的視点に立った評価を確立し、今後のエイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究に生かしていく必要がある。

F. 健康危機情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) M. Z. Dewan, K. Terashima, M. Taruishi, H. Hasegawa, M. Ito, Y. Tanaka, N. Mori, T. Sata, Y. Koyanagi, M. Maeda, Y. Kubuki, A. Okayama, M. Fujii and N. Yamamoto: Rapid tumor formation of human T-cell leukemia virus type 1-infected cell lines in novel NOD-SCID/gammac(null) mice: suppression by an inhibitor against NF-kappaB. *J Virol.* 77:5286-5294. 2003.
- 2) K. Ichiyama, S. Yokoyama-Kumakura, Y. Tanaka, R. Tanaka, K. Hirose, K. Bannai, T. Edamatsu, M. Yanaka, Y. Niitani, N. Miyano-Kurosaki, H. Takaku, Y. Koyanagi and N. Yamamoto: A duodenally absorbable CXC chemokine receptor 4 antagonist, KRH-1636, exhibits a potent and selective anti-HIV-1 activity. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 100:4185-4190. 2003.
- 3) Y. Izumi, Y. Ami, K. Matsuo, K. Someya, T. Sata, N. Yamamoto and M. Honda: Intravenous inoculation of replication-deficient recombinant vaccinia virus DIs expressing simian immunodeficiency virus gag controls highly pathogenic simian-human immunodeficiency virus in monkeys. *J Virol.* 77:13248-13256. 2003.
- 4) Y. Miura, N. Misawa, Y. Kawano, H. Okada, Y. Inagaki, N. Yamamoto, M. Ito, H. Yagita, K. Okumura, H. Mizusawa and Y. Koyanagi: Tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand induces neuronal death in a murine model of HIV central nervous system infection. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 100:2777-2782. 2003.
- 5) N. Saito, G. Courtois, A. Chiba, N. Yamamoto, T. Nitta, N. Hironaka, M. Rowe and S. Yamaoka: Two carboxyl-terminal activation regions of Epstein-

- Barr virus latent membrane protein 1 activate NF-kappaB through distinct signaling pathways in fibroblast cell lines. *J Biol Chem.* 278:46565-46575. 2003.
- 6) T. Saitoh, M. Nakayama, H. Nakano, H. Yagita, N. Yamamoto and S. Yamaoka: TWEAK induces NF-kappaB2 p100 processing and long lasting NF-kappaB activation. *J Biol Chem.* 278:36005-36012. 2003.
- 7) A. Yoshida, R. Tanaka, T. Murakami, Y. Takahashi, Y. Koyanagi, M. Nakamura, M. Ito, N. Yamamoto and Y. Tanaka: Induction of protective immune responses against R5 human immunodeficiency virus type 1 (HIV-1) infection in hu-PBL-SCID mice by intrasplenic immunization with HIV-1-pulsed dendritic cells: possible involvement of a novel factor of human CD4(+) T-cell origin. *J Virol.* 77:8719-8728. 2003.
2. 学会発表
- 1) S. Shimizu, Y. Yoshinaka, R. Kimura, K. Miyauchi, A. Komano, Z. Matsuda and N. Yamamoto: Proteome analysis of chronically infected cells with the virus. The Awaji International Forum on Infection and Immunity, Hyogo, Japan, August 25th-28th, 2003.
- 2) 清水佐紀, 吉仲由之, 木村竜一郎, 宮内浩典, 駒野淳, 松田善衛, 山本直樹: HIV-1 慢性感染細胞におけるプロテオーム解析. 第51回日本ウイルス学会学術集会・総会, 京都, 2003.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）採択課題一覧

開始	終了	主任研究者	所属	研究課題名	課題番号
15	17	岡 慎一	国立国際医療センターACC臨床研究開発部長	免疫賦活を応用したHIV感染症の治療開発に関する研究	H15-エイズ-001
15	17	井戸 栄治	京都大学ウイルス研究所助手	HIV-1遺伝子を広域に持つ新規SHIVとサルを用いたエイズ治療薬開発の研究	H15-エイズ-002
15	17	岡田 則子	名古屋大学大学院医学研究科助教授	HIV感染症の治療開発に関する研究	H15-エイズ-003
15	17	出雲 周二	鹿児島大学医学部教授	エイズ脳症の発症病態と治療法に関する研究	H15-エイズ-004
15	17	安岡 彰	富山医科大学感染予防医学助教授	HAART時代の日和見合併症に関する研究	H15-エイズ-005
15	17	小池 和彦	東京大学医学部感染症内科助教授	HIV感染症に合併する肝疾患に関する研究	H15-エイズ-006
15	17	稲葉 惣之	獨協医科大学産科婦人科学教室教授	HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する基礎的・臨床的研究	H15-エイズ-007
15	17	田中 憲一	新潟大学大学院医学総合研究科産婦人科教授	若年婦人におけるHIV感染状況およびHIV感染と生殖医療との関連性に関する研究	H15-エイズ-008
15	17	坂田 洋一	自治医科大学分子病態研究部教授	血友病の治療とその合併症の克服に関する研究	H15-エイズ-009
15	17	佐多 徹太郎	国立感染症研究所感染病理部長	HIV感染症予防に関する研究	H15-エイズ-010
15	17	岩本 愛吉	東京大学医学研究所教授	エイズ発症阻止に関する研究	H15-エイズ-011
15	17	渡邊 俊樹	東京大学医学研究所・細胞増殖大部門助教授	HIV潜伏感染・再活性化のエピジェネティック制御機構を標的とした根治療法開発の基礎研究	H15-エイズ-012
15	17	池上 千寿子	ぶれいす東京代表	HIV感染予防対策の効果に関する研究	H15-エイズ-013
15	17	大石 敏寛	勤くガイとレズビアンの会副代表理事	同性愛者等のHIV感染リスク要因に基づく予防介入プログラムの開発及び効果に関する研究	H15-エイズ-014
15	17	今井 光信	神奈川県衛生研究所ウイルス部長	HIV検査体制の構築に関する研究	H15-エイズ-015
15	17	五島 真理為	HIVと人権情報センター理事	エイズ対策における関係機関の連携による予防対策の効果に関する研究	H15-エイズ-016
15	17	阿曾 佳郎	財団法人性の健康医学財団	性の健康相談室を通じての市民のSTD/HIV感染調査とHIV感染予防に関する研究	H15-エイズ-017
15	17	木原 正博	京都大学大学院医学研究科教授	HIV感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究	H15-エイズ-018
15	17	武部 豊	国立感染症研究所エイズ研究センター第1室長	アジア・太平洋地域におけるHIV感染症の疫学に関する研究	H15-エイズ-019
15	17	山本 直彦	名古屋大学大学院医学系研究科助教授	非サブタイプB型HIVにおける薬剤耐性ジェノタイプ解析アルゴリズムに関する研究	H15-エイズ-020
15	17	石川 恒克	財団法人結核予防会結核研究所副所長	アジア太平洋地域における国際人口移動から見た危機管理としてのHIV感染症対策に関する研究	H15-エイズ-021
15	17	木村 哲	国立国際医療センターACCセンター長	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	H15-エイズ-022
15	16	星野 忠次	千葉大学大学院薬学研究所助教授	計算機を活用したHIVの薬剤耐性評価	H15-エイズ-023
15	15	草野 秀一	聖マリアンナ医科大学助手	HIVによる新しい宿主免疫回避機構に関する基礎研究	H15-エイズ-024
14	16	秋山 昌範	国立国際医療センター情報システム部 部長	HIV診療支援ネットワークを活用した診療連携に関する研究	H14-エイズ-001
14	16	市川 誠一	名古屋大学看護学部教授	男性同性間のHIV感染予防対策とその推進に関する研究	H14-エイズ-002
14	16	梅井 正義	慶應義塾大学文学部教授	個別施策層に対する固有の対策に関する研究	H14-エイズ-003
13	15	杉浦 互	国立感染症研究所エイズ研究センターグループ長	薬剤耐性のモニタリングに関する技術開発研究	H13-エイズ-001
13	15	佐藤 裕徳	国立感染症研究所遺伝子解析室主任研究官	HIV及びその関連ウイルスの増殖機構及び増殖制御に関する研究	H13-エイズ-002
15	15	山本 直樹	国立感染症研究所エイズ研究センター長	エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究	H15-エイズ-025

平成15年度 エイズ対策研究事業 研究計画発表会 プログラム

8月19日(火) 国立感染症研究所 共用第1会議室

開始年度	終了年度	開始年度	終了年度
10:00-10:15	15	17	17
10:15-10:30	15	17	17
10:30-10:55	15	17	17
10:55-11:10	15	17	17
11:10-11:35	15	17	17
11:35-12:05			
12:05-13:05			
13:05-13:30	15	17	17
13:30-13:45	15	17	17
13:45-14:00	15	17	17
14:00-14:15	15	17	17
14:15-14:30	15	17	17
14:30-15:00			
15:00-15:30			
15:30-15:45	14	16	16
15:45-16:00	14	16	16
16:00-16:15	15	17	17
16:15-16:30	15	17	17
16:30-16:45	15	17	17
16:45-17:00	15	17	17
17:00-17:30			

8月20日(水)	国立感染症研究所 共用第1会議室	開始年度	終了年度
10:00-10:25	木原 正博	15	17
	HIV感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究		
10:25-10:40	武部 豊	15	17
	アジア・太平洋地域におけるHIV感染症の疫学に関する研究		
10:40-10:55	石川 信克	15	17
	アジア・太平洋地域における国際人口移動から見た危機管理としてのHIV感染症対策に関する研究		
10:55-11:20	木村 哲	15	17
	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究		
11:20-11:35	秋山 昌範	14	16
	HIV診療支援ネットワークを活用した診療連携に関する研究		
11:35-12:05			
	討 論		
12:05-13:05			
	昼 食		
13:05-13:30	佐藤 裕徳	13	15
	HIV及びその関連ウイルスの増殖機構及び増殖制御に関する研究		
13:30-13:55	佐多 徹太郎	15	17
	HIV感染予防に関する研究		
13:55-14:20	岩本 愛吉	15	17
	エイズ発症阻止に関する研究		
14:20-14:35	渡邊 俊樹	15	17
	HIVの潜伏感染・再活性化のエピジェネティック制御機構を標的とした根治療法開発の基礎研究		
14:35-14:50	草野 秀一	15	15
	HIVによる新しい宿主免疫回避機構に関する基礎研究		
14:50-15:20			
	討 論		
15:20-15:50			
	休 憩		
15:50-16:05	杉浦 互	13	15
	薬剤耐性のモニタリングに関する技術開発研究		
16:05-16:20	星野 忠次	15	16
	計算機を活用したHIVの薬剤耐性評価		
16:20-16:35	今井 光信	15	17
	HIV検査体制の構築に関する研究		
16:35-16:50	山本 直彦	15	17
	非サブタイプB型HIVにおける薬剤耐性ジェノタイプ解析アルゴリズムに関する研究		
16:50-17:20			
	討 論		
17:20	閉 会		
	疾病対策課、山本 直樹 挨拶		

平成15年度 エイズ対策研究事業 研究成果発表会 プログラム

2月25日(水) 国立感染症研究所 共用第1会議室

10:00-10:15 開 会 疾病対策課、山本 直樹 挨拶

<社会医学研究>

開始年度	終了年度	研究内容
14	16	男性同性間のHIV感染予防対策とその推進に関する研究
14	16	個別施策層に対する固有の対策に関する研究
15	17	HIV感染予防対策の効果に関する研究
15	17	同性愛者等のHIV感染リスク要因に基づく予防介入プログラムの開発及び効果に関する研究
15	17	エイズ対策における関係機関の連携による予防対策の効果に関する研究
15	17	性的健康相談室を通じての市民のSTD/HIV感染調査とHIV感染予防に関する研究

昼 食

12:15-13:15		
13:15-13:45	今井 光信	HIV検査体制の構築に関する研究
13:45-14:15	木村 哲	HIV感染症の医療体制の整備に関する研究

<臨床医学研究>

14:15-14:35	秋山 昌範	HIV診療支援ネットワークを活用した診療連携に関する研究	14	16
14:35-15:05	岡 慎一	免疫賦活を応用したHIV感染症の治療開発に関する研究	15	17
15:05-15:25	井戸 栄治	HIV-1遺伝子を広域に持つ新規SHIVとサルを用いたエイズ治療薬開発の研究	15	17
15:25-15:55		休 憩		
15:55-16:15	岡田 則子	HIV感染症の治療開発に関する研究	15	17
16:15-16:35	出雲 周二	エイズ脳症の発症病態と治療法に関する研究	15	17
16:35-17:05	安岡 彰	HAART時代の日和見合併症に関する研究	15	17
17:05-17:25	小池 和彦	HIV感染症に合併する肝疾患に関する研究	15	17

※持ち時間20分の班は発表時間15分・質疑応答5分、持ち時間30分の班は発表時間22分・質疑応答8分となります。

2月26日(木) 国立感染症研究所 共用第1会議室

	開始年度	終了年度
＜臨床医学研究＞		
10:10-10:30	15	17
稲葉 蕙之		
	HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する基礎的・臨床的研究	
10:30-10:50	15	17
田中 蕙一		
	若年婦人におけるHIV感染状況およびHIV感染と生殖医療との関連性に関する研究	
10:50-11:20	15	17
坂田 洋一		
	血友病の治療とその合併症の克服に関する研究	
11:20-11:40	15	16
星野 忠次		
	計算機を活用したHIVの薬剤耐性評価	
＜基礎医学研究＞		
11:40-12:00	13	15
杉浦 互		
	薬剤耐性のモニタリングに関する技術開発研究	
12:00-12:30	13	15
佐藤 裕徳		
	HIV及びその関連ウイルスの増殖機構及び増殖制御に関する研究	
12:30-13:30		
	昼 食	
13:30-14:00	15	17
佐多 徹太郎		
	HIV感染予防に関する研究	
14:00-14:30	15	17
岩本 愛吉		
	エイズ発症阻止に関する研究	
14:30-14:50	15	17
渡邊 俊樹		
	HIVの潜伏感染・再活性化のエピジェネティック制御機構を標的とした根治療法開発の基礎研究	
14:50-15:10	15	15
草野 秀一		
	HIVによる新しい宿主免疫回避機構に関する基礎研究	
15:10-15:40		
	休 憩	
＜疫学研究＞		
15:40-16:10	15	17
木原 正博		
	HIV感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究	
16:10-16:30	15	17
武部 豊		
	アジア・太平洋地域におけるHIV感染症の疫学に関する研究	
16:30-16:50	15	17
山本 直彦		
	非サブタイプB型HIVにおける薬剤耐性ジェノタイプ解析アルゴリズムに関する研究	
16:50-17:10	15	17
石川 信克		
	アジア・太平洋地域における国際人口移動から見た危機管理としてのHIV感染症対策に関する研究	
17:10		
閉 会	疾病対策課、山本 直樹 挨拶	

※持ち時間20分の班は発表時間15分・質疑応答5分、持ち時間30分の班は発表時間22分・質疑応答8分となります。

II. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
M. Z. Dewan, K. Terashima, M. Taruishi, H. Hasegawa, M. Ito, Y. Tanaka, N. Mori, T. Sata, Y. Koyanagi, M. Maeda, Y. Kubuki, A. Okayama, M. Fujii and N. Yamamoto	Rapid tumor formation of human T-cell leukemia virus type 1-infected cell lines in novel NOD-SCID/gammac(null) mice: suppression by an inhibitor against NF-kappaB.	J Virol.	77	5286-5294	2003
K. Ichiyama, S. Yokoyama-Kumakura, Y. Tanaka, R. Tanaka, K. Hirose, K. Bannai, T. Edamatsu, M. Yanaka, Y. Niitani, N. Miyano-Kurosaki, H. Takaku, Y. Koyanagi and N. Yamamoto	A duodenally absorbable CXC chemokine receptor 4 antagonist, KRH-1636, exhibits a potent and selective anti-HIV-1 activity.	Proc Natl Acad Sci U S A.	100	4185-4190	2003
Y. Izumi, Y. Ami, K. Matsuo, K. Someya, T. Sata, N. Yamamoto and M. Honda	Intravenous inoculation of replication-deficient recombinant vaccinia virus DIs expressing simian immunodeficiency virus gag controls highly pathogenic simian-human immunodeficiency virus in monkeys.	J Virol.	77	13248-13256	2003
Y. Miura, N. Misawa, Y. Kawano, H. Okada, Y. Inagaki, N. Yamamoto, M. Ito, H. Yagita, K. Okumura, H. Mizusawa and Y. Koyanagi	Tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand induces neuronal death in a murine model of HIV central nervous system infection.	Proc Natl Acad Sci U S A.	100	2777-2782	2003

N. Saito, G. Courtois, A. Chiba, N. Yamamoto, T. Nitta, N. Hironaka, M. Rowe and S. Yamaoka	Two carboxyl-terminal activation regions of Epstein-Barr virus latent membrane protein 1 activate NF-kappaB through distinct signaling pathways in fibroblast cell lines.	J Biol Chem.	278	46565-46575	2003
T. Saitoh, M. Nakayama, H. Nakano, H. Yagita, N. Yamamoto and S. Yamaoka	TWEAK induces NF-kappaB2 p100 processing and long lasting NF-kappaB activation.	J Biol Chem.	278	36005-36012	2003
A. Yoshida, R. Tanaka, T. Murakami, Y. Takahashi, Y. Koyanagi, M. Nakamura, M. Ito, N. Yamamoto and Y. Tanaka	Induction of protective immune responses against R5 human immunodeficiency virus type 1 (HIV-1) infection in hu-PBL-SCID mice by intrasplenic immunization with HIV-1-pulsed dendritic cells: possible involvement of a novel factor of human CD4(+) T-cell origin.	J Virol.	77	8719-8728	2003

抄録集

発表刊行物	発表者名	ページ	年
平成15年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 研究成果抄録集	エイズ対策研究事業の企画と評価に 関する研究 主任研究者 山本直樹	1-116	2004

20030575

以降 P.15－P.76は雑誌/図書に掲載された論文となりますので、
P.13－14の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

研究成果抄録集

(抜 粋)

エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究

主任研究者 山本直樹

社会医学研究